

# 排出削減実績報告書

## 排出削減事業の名称：

A 重油炉筒煙管ボイラーから都市ガス貫流ボイラーへの  
更新プロジェクト

排出削減事業者名：東急リネン・サプライ株式会社

排出削減事業共同実施者名：静岡ガス株式会社

その他関連事業者名：(該当なし)

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	東急リネン・サプライ株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	東海工場
住所	静岡県三島市松本 195-1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	静岡ガス株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

A 重油炉筒煙管ボイラーから都市ガス貫流ボイラーへの更新プロジェクト

### 2.2 排出削減事業の目的

当社が使用している A 重油炉筒煙管ボイラーを。高効率都市ガス貫流ボイラーへ更新する。ボイラーの高効率化による燃料消費量の削減及び低炭素燃料への燃料転換によって、CO2 排出量を削減する。

#### 温室効果ガス排出量の削減方法

現在使用している A 重油炉筒煙管ボイラーは、最新型ボイラーに比べ効率が低く、これを新しい高効率貫流ボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO2 排出量を削減する。また、都市ガスは A 重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を都市ガスに転換することにより、CO2 排出量を削減する。

### 2.3

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし。

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2011年12月15日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2019年12月14日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

本削減事業において活動量は用いない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

なし。

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは更新するボイラーとそのボイラーから蒸気の供給を受ける工場の製造設備である。

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
				根拠資料	
M-1	都市ガス使用量	Nm <sup>3</sup>	2013年度 514,307 2014年度 570,240 2015年度 577,740 2016年度 604,244 2017年度 623,902 2018年度 622,708 2019年度 460,818 合計 3,973,959	ガス供給会社からの「ガス料金等請求書」を基に算定 ※換算係数 0.962	N/A
M-2	事業実施前の燃料の按分率 BC-U20	[%]	0.44	事業実施前の各ボイラーの管理メータの値から算定	N/A
	事業実施前の燃料の按分率 MP-805	[%]	0.76	事業実施前の各ボイラーの管理メータの値から算定	N/A
	事業実施前の燃料の按分率 KS-60	[%]	98.8	事業実施前の各ボイラーの管理メータの値から算定	N/A
M-2	都市ガス単位発熱量	GJ/Nm <sup>3</sup>	2013年度 0.0445 2014年度 0.0445 2015年度 0.0444 2016年度 0.0444 2017年度 0.0445	デフォルト値を利用	N/A

			2018年度 0.0436 2019年度 0.0436		
M-3	事業実施後ボイラー効率	[%]	88.20	カタログ値に低位高位変換係数を乗じて導出	N/A
M-4	事業実施前ボイラー効率 BC-U20 (高位)	[%]	83.13	カタログ値に低位高位変換係数を乗じて導出	N/A
	事業実施前ボイラー効率 MP-805 (高位)	[%]	83.60	カタログ値に低位高位変換係数を乗じて導出	N/A
	事業実施前ボイラー効率 KS-60 (高位)	[%]	83.60	カタログ値に低位高位変換係数を乗じて導出	N/A
M-5	A 重油の単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	[tCO2/GJ]	2013年度 0.0708 2014年度 0.0708 2015年度 0.0708 2016年度 0.0708 2017年度 0.0708 2018年度 0.0708 2019年度 0.0708	デフォルト値	N/A
M-6	都市ガスの単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	[tCO2/GJ]	2013年度 0.0513 2014年度 0.0513 2015年度 0.0513 2016年度 0.0513 2017年度 0.0513 2018年度 0.0513 2019年度 0.0513	デフォルト値	N/A



## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

事業実施後の燃料使用量合計 3,973,959[m<sup>3</sup>N] を過去の A 重油使用量実績に基づき、按分する。

- 1) BC-U20 :  $3,973,959 \times 0.44[\%] = 17,485[\text{m}^3\text{N}]$
- 2) MP-60 :  $3,973,959 \times 0.76[\%] = 30,202[\text{m}^3\text{N}]$
- 3) KS-60 :  $3,973,959 \times 98.80[\%] = 3,926,271[\text{m}^3\text{N}]$

### 6.2

#### (1) BC-U20

年度	活動量	単位発熱量 (高位)	排出係数	CO2 排出量
	[Nm <sup>3</sup> ]	[GJ/m <sup>3</sup> N]	[tCO <sub>2</sub> /GJ]	[tCO <sub>2</sub> ]
2013 年度	2,263	0.0445	0.0513	5.2
2014 年度	2,509	0.0445	0.0513	5.7
2015 年度	2,542	0.0444	0.0513	5.8
2016 年度	2,659	0.0444	0.0513	6.1
2017 年度	2,745	0.0445	0.0513	6.3
2018 年度	2,740	0.0436	0.0513	6.1
2019 年度	2,028	0.0436	0.0513	4.5
EM <sub>PJ</sub>				39.7

#### (2) MP-805

年度	活動量	単位発熱量 (高位)	排出係数	CO2 排出量
	[Nm <sup>3</sup> ]	[GJ/m <sup>3</sup> N]	[tCO <sub>2</sub> /GJ]	[tCO <sub>2</sub> ]
2013 年度	3,909	0.0445	0.0513	8.9
2014 年度	4,334	0.0445	0.0513	9.9
2015 年度	4,391	0.0444	0.0513	10.0
2016 年度	4,592	0.0444	0.0513	10.5
2017 年度	4,742	0.0445	0.0513	10.8
2018 年度	4,733	0.0436	0.0513	10.6
2019 年度	3,502	0.0436	0.0513	7.8
EM <sub>PJ</sub>				68.5

(3) KS-60

年度	活動量	単位発熱量 (高位)	排出係数	CO2 排出量
	[Nm3]	[GJ/m3N]	[tCO2/GJ]	[tCO2]
2013 年度	508,135	0.0445	0.0513	1160.0
2014 年度	563,397	0.0445	0.0513	1286.2
2015 年度	570,807	0.0444	0.0513	1300.1
2016 年度	596,993	0.0444	0.0513	1359.8
2017 年度	616,415	0.0445	0.0513	1407.2
2018 年度	615,236	0.0436	0.0513	1376.1
2019 年度	455,288	0.0436	0.0513	1018.3
EM <sub>PJ</sub>				8907.7

6.3 ベースライン排出量

(1) BC-U20

年度	活動量	排出係数	CO2 排出量
	[GJ]	[tCO2/GJ]	[tCO2]
2013 年度	106.8	0.0708	7.6
2014 年度	118.5	0.0708	8.4
2015 年度	119.7	0.0708	8.5
2016 年度	125.3	0.0708	8.9
2017 年度	129.6	0.0708	9.2
2018 年度	126.7	0.0708	9.0
2019 年度	93.8	0.0708	6.6
EM <sub>BL</sub>			58.2

(2) MP-805

年度	活動量	排出係数	CO2 排出量
	[GJ]	[tCO2/GJ]	[tCO2]
2013 年度	183.5	0.0708	13.0
2014 年度	203.5	0.0708	14.4
2015 年度	205.7	0.0708	14.6
2016 年度	215.6	0.0708	15.3
2017 年度	222.6	0.0708	15.8
2018 年度	217.7	0.0708	15.4
2019 年度	161.1	0.0708	11.4
EM <sub>BL</sub>			99.8



## (3) KS-60

年度	活動量	排出係数	CO2 排出量
	[GJ]	[tCO2/GJ]	[tCO2]
2013 年度	23,856.2	0.0708	1689.0
2014 年度	26,450.7	0.0708	1872.7
2015 年度	26,738.3	0.0708	1893.1
2016 年度	27,965.0	0.0708	1979.9
2017 年度	28,939.8	0.0708	2048.9
2018 年度	28,300.3	0.0708	2003.7
2019 年度	20,942.8	0.0708	1482.8
EM <sub>BL</sub>			12970.1

## 6.4 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0tCO2

## 6.5 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	13128.1tCO2
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	9015.9tCO2
リークージ排出量 (7.3)	LE	0tCO2
温室効果ガス排出削減量	ER	4112tCO2

## 7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	原油換算 (kl)		
	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
	4808.6	4613.8	194.8

省エネ量 = 4808.6 (kl) - 4613.8 (kl) = 194.8 (kl)

## 9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年4月1日 ~ 2019年12月14日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			
	t			